

北電

第92期中間報告書

平成27年4月1日～平成27年9月30日



- 3 株主の皆さまへ
- 4 志賀原子力発電所
敷地内破砕帯(シーム)の審議状況と今後の対応について
- 6 低炭素社会の実現に向けた取組み
- 7 北陸電力グループの紹介
- 8 事業の概況
- 10 連結財務諸表
- 12 北陸の宝 ～重要文化財を巡る～ 高岡山 ずいりゅうじ 瑞龍寺
- 14 株主information

北陸の宝 ～重要文化財を巡る～ 高岡山 ずいりゅうじ 瑞龍寺

富山県で唯一の国宝を保持しているのが、高岡市にある瑞龍寺です。その建築的価値が高く評価される3つの国宝のほか、7つの重要文化財を有しています。加賀藩二代藩主前田利長公が隠居した地として、前田家への想いが強い土地柄の象徴ともいえるこの寺の、意外な役割をご紹介します。



株主の皆さまへ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜わり厚くお礼申し上げます。

今年度上半期の北陸経済においては、設備投資の増加や雇用情勢の改善に加えて、北陸新幹線金沢開業の波及効果などもあり、景気の回復が続きました。

このようななか、当上半期の連結収支につきましては、引き続き経営全般にわたる効率化に努めていることに加え、北陸電気工事(株)の連結子会社化などにより、増収増益となりました。中間配当につきましては、依然として厳しい収支状況ではありますが、安定配当継続の方針に基づき、1株につき25円とさせていただきます。

今冬の電力需給につきましては、日々の電力供給には支障のない水準の供給力を確保できる見通しとなりました。しかし、原子力の停止が継続している状況において、大型電源のトラブル等の不確定要素を考慮しますと、厳しい需給状況が予想されますことから、引き続き適切な対策を講じてまいります。

志賀原子力発電所敷地内シームに関しましては、当社はこれまでに多種多様の追加調査を実施し、「将来活動する可能性のある断層等ではない」とする報告書を原子力規制委員会に提出しておりましたが、本年7月の同委員会の有識者会合において、「後期更新世以降に活動したことを肯定する明確な根拠は見いだせないが、変異、変形を生じた可能性は否定できない」とする評価書案が提示されました。

これに対し当社は、本年8月に、追加調査により得られたデータ等を含め、改めて総合的に整理し取りまとめた意見書を提出しており、社外学識者から当社の意見は「科学的合理性を有しており妥当である」との見解をいただいております。

今後、新規制基準への適合性確認審査の審議等において、意見書の内容や更なるデータの整理・拡充を踏まえた説明をしっかりと行うことにより、当社評価の妥当性について、必ずやご理解がいただけるものと考えております。

当社といたしましては、引き続き、志賀原子力発電所の再稼働に向け、敷地内シームの問題解決や新規制基準の適合性確認審査に的確に対応するとともに、安全対策を着実に実施してまいります。

現在、2016年4月からの小売全面自由化が決定し、また2020年4月からの送配電部門の法的分離が予定される等、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変わろうとしています。当社グループは、こうした状況変化に的確に対応するとともに、低廉で良質なエネルギーを安定的にお届けするという変わらぬ社会的使命を果たすことで、皆さまから「信頼され選択される企業」を目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、当社グループに対し、なお一層のご理解とご支援を賜わりますよう、お願い申し上げます。



平成27年11月

代表取締役会長 久和道
代表取締役社長
社長執行役員 金井豊

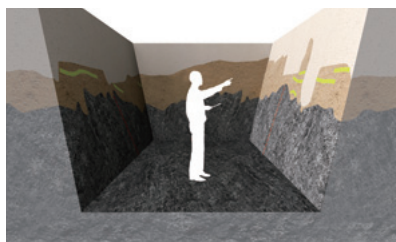
志賀原子力発電所 敷地内破碎帯(シーム)の審議状況と今後の

原子力規制委員会の有識者会合において7月17日に示された評価書案に対し、当社は、意見書を取りまとめ、有識者会合宛てに提出(8月10日)し、現在、理解活動に取り組んでいます。

評価書案では、シームについて「明確な根拠は認められないが、変位・変形を生じた可能性は否定できない」とまとめられましたが、これは当社の調査結果が総合的に考慮されたものとは考えられません。

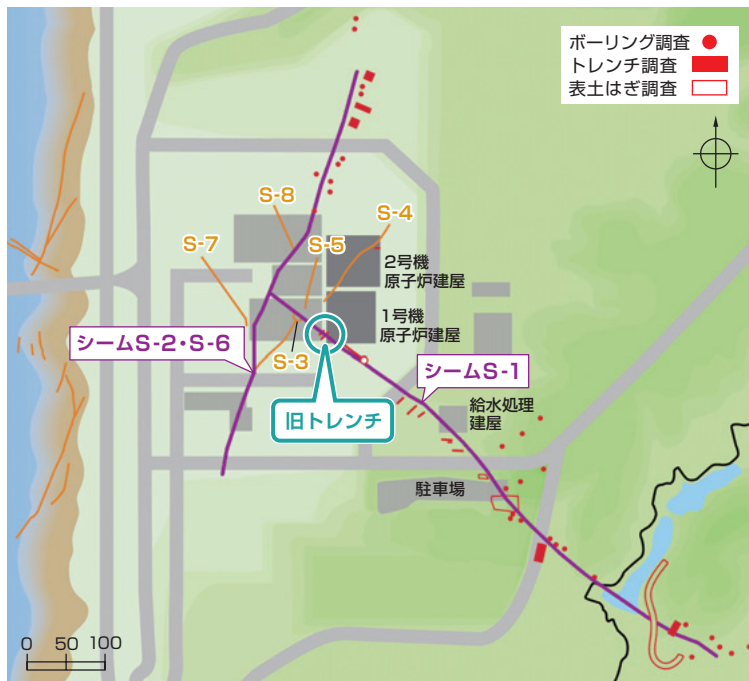
当社は、3年にわたり徹底した追加調査を行い、2千ページを超える資料を有識者会合に提出しています。

当社は、これらの科学的な調査データを総合的に検討し、「将来活動する可能性のある断層等ではない」と評価しています。



■ トレンチ調査

地面を溝状に掘削し、その壁面に見られる地質状況を直接確認したり、試料を採取したりする調査



これまでの経緯

年 月	状 況
平成24年7月	●旧原子力安全・保安院の意見聴取会において委員より旧トレンチのスケッチからは活断層に見えるとの指摘があり、これを受けて、追加調査が指示された。
平成25年12月19日	●当社は、追加実施した調査に基づき、最終報告書(結論:敷地内シームは将来活動する可能性のある断層等ではない)を取りまとめ、原子力規制委員会に提出。
平成26年2月～ 平成27年5月	●原子力規制委員会の有識者会合において、6回の評価会合と2回の現地調査が実施された。 ●有識者からのコメントに対して、当社は、補足調査・分析・解析を行った上で、詳細な資料を用いて全て丁寧に回答。
平成27年7月17日	●第7回評価会合において、評価書案が提示された。 (後期更新世以降に活動したことを肯定する明確な根拠は認められないが、変位・変形を生じた可能性は否定できない)

対応について

当社の意見

- 評価書案では、「後期更新世以降に活動したことを肯定する明確な根拠は認められない」としながらも、「変位・変形を生じた可能性は否定できない」とされているように、評価の前提となるべき追加調査結果が総合的に考慮されたものとは考えられません。

〈補足〉 問題の発端となった旧トレンチは発電所建設により現存せず、スケッチや写真が残るのみであることから、意見聴取会における委員のコメントや原子力規制委員会の審査ガイドを踏まえ、シームの延長での調査を行いました。しかし、評価書案では、これらの調査結果が十分考慮されず、結局、旧トレンチのスケッチを基に判断されています。

なお、旧トレンチは、建設前の国の安全審査（昭和62～63年）において、専門家による直接の確認がなされ、シームは活動性がないと判断されています。

Q：例えば、どんな点が評価書案と北陸電力の見解が違っているのでしょうか？

A：評価書案の結論の主要な根拠となっているモデル計算は、前提条件が調査データと全く整合が取られていません。

評価書案では、シームS-2・S-6が長さ15km、深さ12kmの自ら地震を起こす断層であると仮定すれば、シームS-1の一部がずれると主張しています。しかし、シームS-2・S-6は、当社調査の結果、長さ約550m、深さ約130m未満であり、自ら地震を起こすものではないことが確認されています。

この他にも、当社の調査結果が考慮されていない評価が多く見受けられます。

当社意見書の全文を当社ホームページに掲載しております。

(<http://www.rikuden.co.jp/hyoka/attach/20150810ikensyo.pdf>)

北陸電力 シームの審議状況

検索

当社の意見に対する社外学識者の見解

3人の社外学識者から、**当社の意見は「科学的合理性を有しており妥当である」**との見解をいただいています。

東京大学名誉教授 小島圭二氏（地質工学・地質学）、元富士常葉大学学長 徳山 明氏（地質学・構造地質学）
首都大学東京教授 山崎晴雄氏（地震地質学・第四紀学・地形学）

今後の流れ

第7回評価会合 (7/17)

評価書案について審議

ピア・レビュー会合

当社の調査を担当していない
他の12人の有識者を含めて審議

規制委員会への報告

※この評価書は、法的に
強制力はありません

新規制基準への 適合性審査

(評価書は参考扱い)

当社は現在、中央のオピニオンリーダーや地元の皆さまにご理解いただく対話活動を積極的に行っております。評価書が規制委員会に報告された後、正式な行政手続きである志賀2号機の「新規制基準の適合性確認審査」の場で審議されることとなりますが、意見書の内容や更なるデータの整理・拡充を踏まえた説明をしっかりと行っていくことにより、「活動性はない」との当社の評価をご理解いただけるものと考えております。

低炭素社会の実現に向けた取組み

富山新港火力発電所LNG 1号機の建設状況について

当社は、富山新港火力発電所石炭1号機をリプレースし、LNG(液化天然ガス)を燃料とするコンバインドサイクル発電設備*のLNG 1号機の建設を進めております。

これにより、一層の電源多様化による安定供給の確保と更なるCO₂排出量削減による低炭素社会の実現に貢献してまいります。

本年3月に本体工事を開始し、LNGバース工事や燃料設備、発電設備などの基礎工事を行っており、平成30年11月の営業運転開始に向けて安全を最優先に工事を進めてまいります。

*コンバインドサイクル発電設備：従来の蒸気タービンでの発電と比較して熱効率がが高い、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた発電設備

〈LNG 1号機の概要〉

所在地	富山新港火力発電所（富山県射水市）
発電出力	42.47万kW (コンバインドサイクル発電設備)
CO ₂ 削減量	120万t-CO ₂ /年程度
着工時期	平成27年3月
運転開始時期	平成30年11月（予定）

完成予想図



LNGバース工事状況



LNGタンク基礎工事状況



北陸電力グループの紹介

北陸電気工事株式会社

“技術だけじゃない,人柄も北陸電工”

北陸電力グループ最大のパートナー企業として
あらゆる設備を私たちの技術で提供し続けます

〒939-8571 富山県富山市小中269番地
TEL:(076)481-6092 FAX:(076)481-6298
ホームページ: <http://www.rikudenko.co.jp>

会社概要

設立: 昭和19年10月1日
資本金: 33億2,869万円
代表者: 取締役社長 三鍋 光昭
従業員: 1,032名(平成27年9月末)
主要事業所: 本店,支店(富山・新川・高岡・金沢・
小松・七尾・福井・敦賀・東京・大阪)
売上高: 連結431億円(平成26年度)

主な事業内容

◆電気設備及び空調・給排水設備工事

一般家庭からオフィスビル,商業ビル,公共施設,レジャー施設,ホテル,工場などのあらゆる建物・施設で快適な空間を創造するため,環境への配慮と安全を第一に,電気・空調・給排水・衛生工事の調査・設計・施工・メンテナンス・リニューアル,ならびに各種機器・製品の販売まで,総合的なサービスを提供しております。

◆電力供給設備工事

電力の安定供給のために,安全と高い技術力で,各種電力供給設備の施工を行っております。時代のニーズに応えるべく,新しい工法の開発に取り組み,日々研鑽を重ね,高品質な設備を提供することで地域に貢献してまいります。

◆情報通信設備工事

移動体通信,ケーブルテレビ施設など,オフィスから一般家庭まで,さまざまな場所で活用される情報通信設備に関する調査・設計・施工・メンテナンスを責任もって実施いたします。

◆トータル エネルギー ソリューション

省エネ・省力・安全化などの視点からのリニューアルのご相談,ESCO事業を活用した省エネルギー対策,燃料転換によるCO₂排出抑制など,さまざまなご提案を行っております。



施工例(TOYAMAキラリ)



配電線工事



塔上作業

事業の概況

(単位：億kWh)

	平成27年度上半期 (A)	平成26年度上半期 (B)	増 減 (A) - (B)	対 比 (A) / (B)
販 売 電 力 量	132	132	0	100.3%

(注) 億kWh未満四捨五入

(単位：億円)

	平成27年度上半期 (A)	平成26年度上半期 (B)	増 減 (A) - (B)	対 比 (A) / (B)
売 上 高 (営 業 収 益)	2,676	2,634	42	101.6%
営 業 利 益	252	272	△19	92.8%
経 常 利 益	204	178	25	114.3%
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 四 半 期 純 利 益 [※]	113	101	12	112.0%

(※) 平成27年度より「四半期純利益」から「親会社株主に帰属する四半期純利益」に名称変更

(注) 億円未満切捨

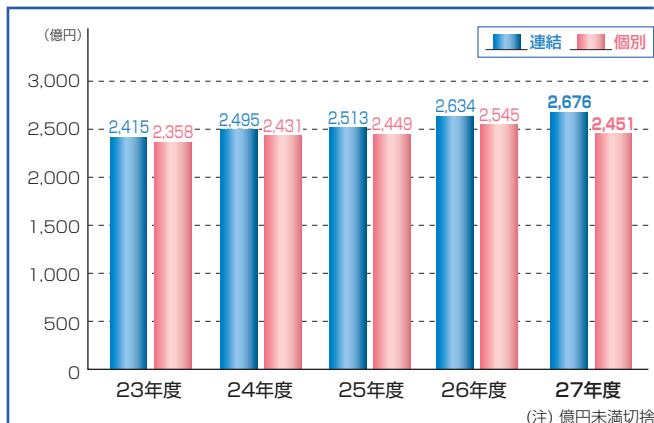
収支の状況

当上半期の我が国経済は、中国をはじめとする新興国経済の減速影響はみられましたが、設備投資が持ち直し、雇用環境も改善するなど、緩やかな回復が続きました。北陸地域においては、北陸新幹線金沢開業の波及効果もあり、回復を続けています。

このような経済情勢のもと、当上半期の連結収支につきましては、売上高(営業収益)は、電気事業において卸電力取引所販売が減少したものの、北陸電気工事(株)の連結子会社化などから前年同期に比べ42億円増の2,676億円となり、これに営業外収益を加えた経常収益は38億円増の2,690億円となりました。

また、経常利益は、電気事業において石炭火力発電所の稼働減はあったものの、水力発電量の増加や北陸電気工事(株)の連結子会社化などにより、前年同期に比べ25億円増の204億円となりました。これに、渴水準備金を引き当て、法人税等を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ12億円増の113億円となりました。

■売上高の推移(上半期)



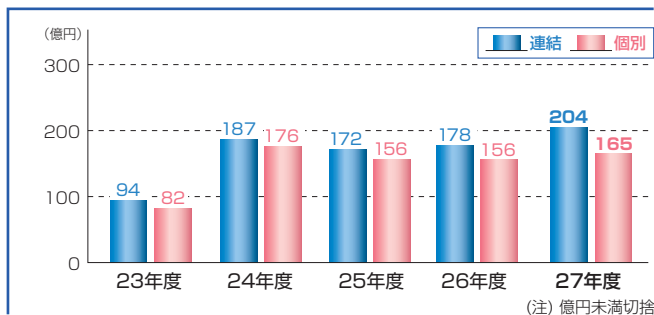
■販売の状況

当上半期の販売電力量につきましては、電灯および業務用は、それぞれ、ほぼ前年同期並みとなりました。

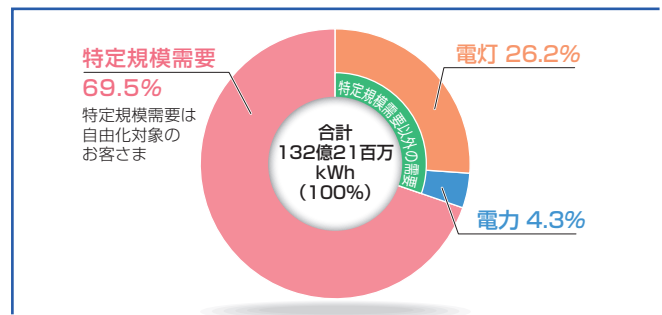
産業用その他は、大口電力で機械などが増加したことから、前年同期を上回りました。

この結果、販売電力量は132億21百万キロワット時(うち特定規模需要91億95百万キロワット時)となり、ほぼ前年同期並みとなりました。

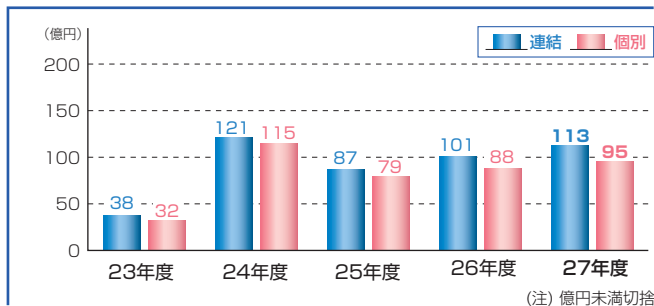
■経常利益の推移(上半期)



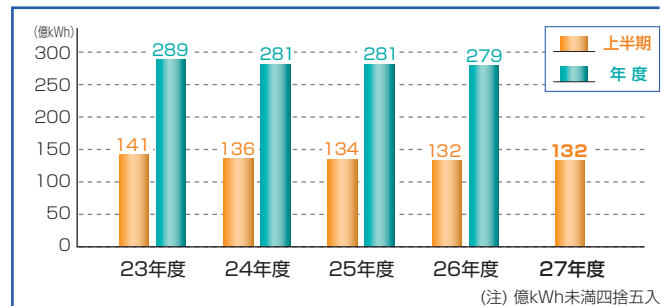
■当上半期販売電力量の構成比



■純利益の推移(上半期)



■販売電力量の推移



四半期連結貸借対照表の要旨

(単位:億円)

資 産 の 部			負 債 及 び 純 資 産 の 部		
科 目	当第2四半期 連結会計期間 (平成27年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成27年3月31日現在)	科 目	当第2四半期 連結会計期間 (平成27年9月30日現在)	前連結会計年度 (平成27年3月31日現在)
固 定 資 産	11,978	12,035	固 定 負 債	8,918	8,949
電気事業固定資産	8,160	8,334	社 債	4,048	4,053
水力発電設備	1,052	1,079	長 期 借 入 金	3,683	3,685
汽力発電設備	1,117	1,115	流 動 負 債	2,099	2,236
原子力発電設備	1,669	1,768	1年以内に期限到来の固定負債	1,025	877
送 電 設 備	1,618	1,648	短 期 借 入 金	171	160
変 電 設 備	867	873	引 当 金	196	166
配 電 設 備	1,462	1,465	負 債 合 計	11,213	11,352
固定資産仮勘定	956	822			
核 燃 料	1,063	1,050	株 主 資 本	3,248	3,187
投資その他の資産	1,363	1,390	資 本 金	1,176	1,176
流 動 資 産	2,720	2,759	資 本 剰 余 金	339	339
現金及び預金	1,658	1,743	利 益 剰 余 金	1,765	1,704
受取手形及び売掛金	565	539	自 己 株 式	△33	△33
た な 卸 資 産	273	220	その他の包括利益累計額	146	169
			非支配株主持分	89	85
			純 資 産 合 計	3,485	3,442
合 計	14,698	14,794	合 計	14,698	14,794

四半期連結損益計算書の要旨

(単位: 億円)

費用の部			収益の部		
科目	当第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	科目	当第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業費用	2,424	2,361	営業収益	2,676	2,634
電気事業営業費用	2,218	2,282	電気事業営業収益	2,442	2,534
その他事業営業費用	206	79	その他事業営業収益	234	99
営業利益	(252)	(272)			
営業外費用	61	111	営業外収益	13	18
四半期経常費用合計	2,486	2,473	四半期経常収益合計	2,690	2,652
四半期経常利益	204	178			
濁水準備金引当又は取崩し	29	8			
税金等調整前四半期純利益	174	170			
法人税等	55	68			
親会社株主に帰属する四半期純利益	113	101			
(参考) 四半期包括利益	96	108			

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位: 億円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	165	492
税金等調整前四半期純利益	174	170
減価償却費	339	350
投資活動によるキャッシュ・フロー	△362	△644
財務活動によるキャッシュ・フロー	111	930
社債・借入金等の純増減額	165	983
自己株式の取得・売却	△0	△0
配当金の支払額	△52	△52
現金及び現金同等物の増加額	△85	778
現金及び現金同等物の期首残高	1,743	1,846
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,658	2,624

連結子会社 (13社)

- 日本海発電(株)
 - 北陸発電工事(株)
 - 北電テクノサービス(株)
 - 北陸電気工事(株)
 - 日本海コンクリート工業(株)
 - 北陸通信ネットワーク(株)
 - 北電情報システムサービス(株)
 - 北陸エルネス(株)
 - 北電産業(株)
 - 日本海環境サービス(株)
 - 北電技術コンサルタント(株)
 - (株)北陸電力リビングサービス
 - 北電パートナーサービス(株)
- (平成27年9月30日現在)

持分法適用会社 (1社)

- (株)ケーブルテレビ富山
- (平成27年9月30日現在)

北陸の宝

～重要文化財を巡る～

ずいりゅうじ
高岡山 瑞龍寺

前田家の志を
今に語る建築物たち。



加賀藩の建築物において、最高傑作とも賞される国宝 仏殿

山門・仏殿・法堂が富山県で唯一国宝に指定されている，高岡市の瑞龍寺。加賀藩三代藩主前田利常が兄の二代藩主利長の菩提を弔うために建てられたこのお寺について、ご紹介します。

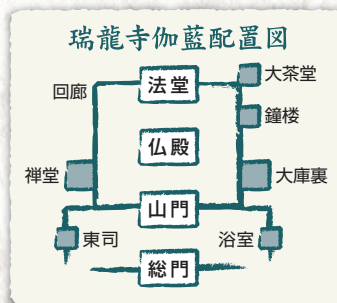
加賀藩二代藩主前田利長公の菩提寺が国宝へ。

瑞龍寺は「大規模な曹洞宗寺院の中でも、整備された伽藍配置をもっともよく残すものの一つであり、伽藍全体として保存を図る必要がある」として、3つの国宝のほか総門・禅堂・大茶堂・高廊下・回廊が重要文化財に指定されています。父利家と共に加賀百万石の礎を築いた利長の菩提寺として、約20年の歳月をかけ1663年に建立されました。

ご住職の四津谷 道宏さんは、「文化華やかな金沢は謀反心がないことを示す表の町で、高岡は経済や武力を担う町として造られたのではないのでしょうか。瑞龍寺をよく見るとそれが分かるのです」と、いいます。



国宝 法堂外観



“城”として前田家を守り、 “神社”として利長公を祀った。

仏殿の屋根は、鉛製です。「表向きは雪への重さ対策ですが、鉄砲の材料にもなり得ます。その他にも二重の堀、薬医門形式*の山門、周りをおおう回廊など、寺全体で考えると“城”だともいえます」と、四津谷さん。さらに、「法堂には利長公の御尊牌と鳥居の形にも見える柱があります。つまり、利長公を神と祀っているのです。御尊牌はひざますこそんばいいて初めてその全貌を拝むことができる巨大なもので、代々藩主が利長公に敬意を示した様子が目に浮かびます」。寺でもあり、城でもあり、神社でもある。瑞龍寺は、前田家が幕府への忠誠を隠れ蓑にしてお家存続に尽力した遺跡ともいえるでしょう。

※城や武家屋敷などで使われる様式



「日光東照宮に向けて造られていて、徳川に忠誠を誓うと共に、対抗していたことも分かります」と、四津谷さん

↓法堂内正面に祀られた利長公御尊牌



山門から見た仏殿。回廊の真ん中を山門—仏殿—法堂が一直線に並び、それぞれを借景にしている

前田家ゆかりの地・高岡の 誇りをいつまでもつないでいく。

地元の人が初詣や遠足などで足を運ぶ、瑞龍寺。この宝を多くの方々に見ていただきたいと、毎年4月28～30日に実行委員会が主となってライトアップを行い、来訪者をその美しさで酔わせています。「現在欠けている浴室と東司を再建して七堂伽藍を復活させるのが私の目標です」と、四津谷さん。利長公を敬う心が根付く高岡の人々と共に、瑞龍寺はこれからもその想いを伝えていくことでしょう。

高岡山 瑞龍寺

住 所：富山県高岡市関本町35

T E L：(0766)22-0179

U R L：<http://www.zuiryuji.jp>



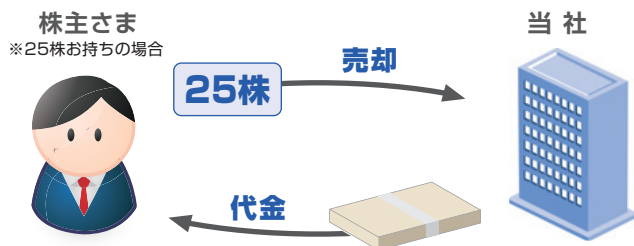
株主information

A 100株未満の株式をお持ちの株主さまへ

当社は100株を1単位としており、市場で売買したり、株主総会で議決権を行使したりするためには、100株単位にしていただく必要があります。このため、当社は以下の制度をご用意しております。手数料は無料としておりますので是非ご活用ください。

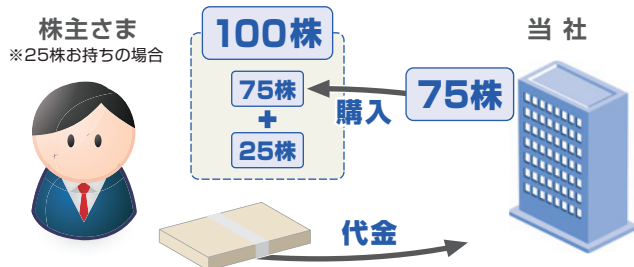
※証券会社の口座に単元未満株式をご所有の株主さまは、証券会社での手数料がかかる場合があります。

■ 単元未満株式の買取制度



株主さまがご所有の単元未満株式を処分したい場合、当社に単元未満株式を売却できる制度です。

■ 単元未満株式の買増制度



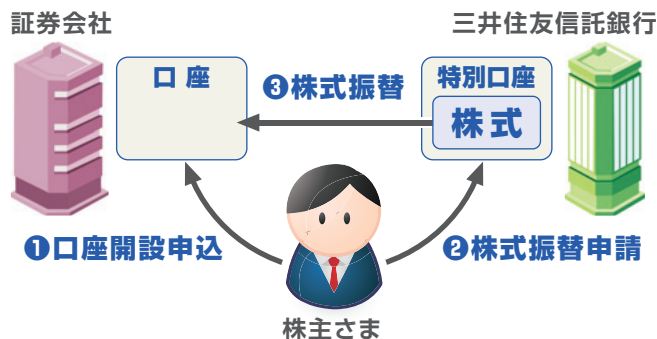
株主さまがご所有の単元未満株式を1単位(100株)にしたい場合、当社から単元未満株式を購入できる制度です。

B 証券会社に口座をお持ちでない株主さまへ

平成21年の株券電子化により、株主さまの権利は電子的に証券会社の口座で管理されることになりました。それまでに証券会社に口座をお持ちでない株主さまの株式につきましては、その権利を確保するために、当社は三井住友信託銀行に「特別口座」を開設して株式を管理しております。

この特別口座の株式につきましては、売買や譲渡(贈与など)ができません。(単元未満株式の買取・買増制度はご利用いただけます。)

このため、証券会社にご本人名義の口座を開設され、特別口座から株式の振替手続きをされることをおすすめいたします。



A B Cのお手続きのお問い合わせ先

〈証券会社に口座をお持ちの株主さま〉
口座を開設された証券会社にお申し出ください

〈証券会社に口座を開設されていない株主さま(特別口座株主さま)〉
三井住友信託銀行 証券代行部にお申し出ください

 0120-782-031

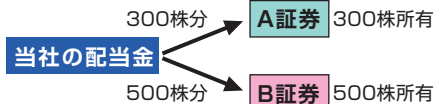
◎ 配当金を「配当金領収証」でお受け取りの株主さまへ

■ 配当金のお受け取り方法を口座振込にすることができます。

配当金を郵便局等にお受け取りに行く必要がなく、また、お受け取り忘れの心配がありません。(※)
口座振込には以下3つの方法があります。是非ご利用ください。

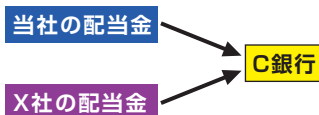
※配当金領収証に記載された支払期間(支払開始日から約1か月間)が過ぎた場合は、お受け取りに別途手続きが必要になります。

① ご所有のすべての株式の配当金をお取引の証券会社の口座で受け取る方法 《株式数比例配分方式》



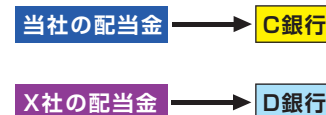
- ※ 複数の証券会社に分散してご所有の場合は、証券会社ごとのご所有株式数に応じた配当金がそれぞれの口座に入金されます。
- ※ 特別口座に株式をご所有の場合は、この方法はご利用になれません。
- ※ 少額投資非課税口座(NISA口座)をお持ちの方はこの方法になります。

② ご所有のすべての株式の配当金をあらかじめご指定いただいた1つの銀行等の口座で受け取る方法 《登録配当金受領口座方式》



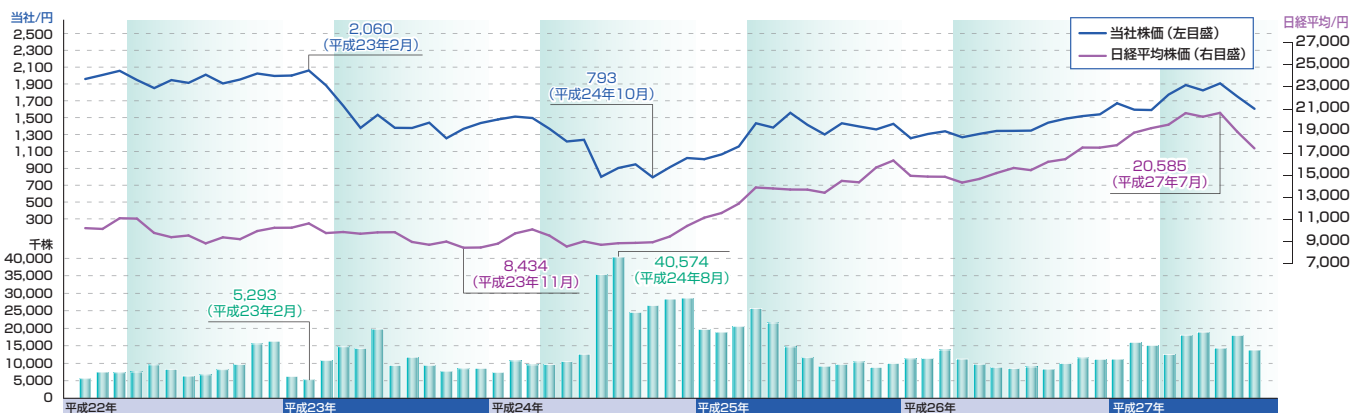
- ※ 1つの銘柄について手続きを行えば、自動的に他の銘柄にも適用されます。
- ※ ゆうちょ銀行の口座は指定できません。

③ ご所有の銘柄ごとに銀行等の口座を指定し配当金を受け取る方法 《個別銘柄指定方式》



- ※ 銘柄ごとにお手続きが必要です。

■ 当社株価(月末終値)および出来高の推移



株主information

会社概要

(平成27年9月30日現在)

- 設立年月日 昭和26年5月1日
- 資本金 1,176億4,154万9,080円
- 発行可能株式総数 4億株
- 発行済株式総数 2億1,033万3,694株
- 販売区域 富山県、石川県、福井県(一部を除く)、岐阜県の一部
- 従業員数 5,032名(出向者等を除く)
- 供給設備
 - 発電所
 - 水力 130か所 出力/191.7万kW
 - 火力 6か所 出力/440.0万kW
 - 原子力 1か所 出力/174.6万kW*
 - 新緑ギ 6か所 出力/ 0.8万kW
 - 計 143か所 出力/807.1万kW
 - ※：志賀2号機において、整流板を設置して運転の場合
 - 送電線 電線路こう長 3,328km
 - 変電所 203か所 出力/3,075万kVA
 - 配電線 電線延長 12万2,037km

- 主要事業所
 - 本店 富山市牛島町15番1号
 - 地域共生本部 金沢市下本多町六番丁11番地
 - 原子力本部 石川県羽咋郡志賀町高浜町二13番地21
 - 富山支店 富山市牛島町13番15号
 - 高岡支社 高岡市広小路7番15号
 - 魚津支社 魚津市新金屋一丁目12番12号
 - 石川支店 金沢市下本多町六番丁11番地
 - 七尾支社 七尾市三島町61の7
 - 小松支社 小松市栄町25の1
 - 福井支店 福井市日之出一丁目4番1号
 - 丹南支社 越前市新町10字東野末1の6
 - 東京支社 東京都港区虎ノ門二丁目8番1号
虎の門電気ビルディング6階

役員

(平成27年9月30日現在)

- 代表取締役会長 久和 進 常勤監査役 高桑 幸一
- 代表取締役社長 金井 豊 常勤監査役 湊見 隆昌
- 代表取締役社長執行役員 赤丸 準一 監査役 細川 俊彦
- 代表取締役副社長 矢野 茂 監査役 秋庭 悦子
- 代表取締役副社長執行役員 西野 彰純 監査役 伊東 忠昭
- 取締役常務執行役員 堀田 正之
- 取締役常務執行役員 長谷川 俊行
- 取締役常務執行役員 尾島 志朗
- 取締役常務執行役員 高林 幸裕
- 取締役常務執行役員 石黒 伸彦
- 取締役 深山 彬
- 取締役 川田 達男
- 取締役 高木 繁雄

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月
- 配当金の受領株主確定日 期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
- 単元株式数 100株
- 証券コード 9505
- 公告方法 電子公告により、当社のホームページに掲載して行います。
(<http://www.rikuden.co.jp/>)

- 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
【郵便物ご送付先】〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
【お問い合わせ先】☎0120-782-031
【ホームページ】<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

株式に関する手続きおよびお問い合わせ先について

- <証券会社に口座を開設されている株主さま>
口座を開設された証券会社にお申出ください
- <証券会社に口座を開設されていない株主さま(特別口座株主さま)>
三井住友信託銀行 証券代行部にお申出ください



北陸電力

〒930-8686 富山市牛島町15番1号
電話 076-441-2511(代表)
<http://www.rikuden.co.jp/>
発行/総務部株式会社チーム 平成27年11月

